令和７年度東京都サービス管理責任者等研修検討会　活動報告

## 概要

サービス管理責任者研修及び児童発達支援管理責任者研修（以下「サービス管理責任者等研修」という。）を円滑かつ効果的に行えるよう、研修カリキュラム等について検討する。

**【活動方針】**

・「東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿 Ver. 5」に基づき、研修内容を検討する
・基礎研修、実践研修、更新研修で使用する教材のブラッシュアップを図るとともに、研修全体を見渡し、つながりを意識した研修プログラムを作成するため、いくつかの横断的な課題を抽出・検討し、各研修に持ち帰る
・各研修のポイントや役割について演習ファシリテーターの理解を促進するためファシリテーター説明会の内容を検討する
・質の高い研修を継続して実施するため、次期講師の育成と講師間の関係づくりを目的としたサービス管理責任者等研修演習指導者養成研修を実施する

**【委員構成】**

| | | 氏名 | 所属 |
|---|---|---|---|
| 1 | 副委員長 | 会田　真一 | 社会福祉法人ひらいルミナル |
| 2 | 副委員長 | 岡田　哲也 | 社会福祉法人雲柱社 |
| 3 | | 小出　由貴子 | 社会福祉法人友愛十字会 |
| 4 | | 相良　宏司 | 社会福祉法人東京援護協会 |
| 5 | | 清水　謙一 | 社会福祉法人まちだ育成会 |
| 6 | | 丹澤　和美 | 社会福祉法人草むら |
| 7 | 委員長 | 妹尾　和美 | 明星大学 |
| 8 | | 徳嵩　順一 | 社会福祉法人正夢の会 |
| 9 | | 徳武　孝 | 社会福祉法人足立邦栄会 |
| 10 | | 樋口　勝 | 社会福祉法人本郷の森 |
| 11 | | 皆川　直美 | 社会福祉法人からしだね |
| 12 | 副委員長 | 宮田　理恵 | 特定非営利活動法人めぶき |
| 13 | | 横山　美紀 | 社会福祉法人イリアンソス |
| 14 | | 吉田　遊佑 | 社会福祉法人イリアンソス |
| 15 | | 渡辺　哲男 | 社会福祉法人調布市社会福祉事業団 |

**【各研修の検討体制】**◎印：チームリーダー

| 検討チーム | 委員 |
|---|---|
| 基礎研修 | ◎岡田、相良、横山、吉田、徳嵩 |
| 実践研修 | ◎宮田、小出、樋口、渡辺、清水 |
| 更新研修 | ◎会田、丹澤、徳武、皆川 |
| 演習指導者養成研修 | 岡田、相良、横山、吉田 |
| 専門コース別研修 | 皆川、宮田、横山 |

【活動状況】

| | 日程 | 検討事項 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 5 月 15 日 | 委員長・副委員長選出<br>年間研修実施計画について<br>年間活動方針案及び計画案について<br>つながりを意識した研修プログラムの作成について |
| 第 2 回 | 8 月 19 日 | 横断的な課題の検討<br>各研修チームでの検討 |
| 第 3 回 | 11 月 11 日 | 令和 7 年度サービス管理責任者等指導者養成研修会受講報告<br>横断的な課題の検討<br>各研修プログラムの検討 |
| 第 4 回 | 3 月 13 日 | 年間のまとめ及び次年度への引継ぎ事項 |

## 活動成果

**【活動成果１　研修プログラムの検討と教材作成】**

・研修の教室進行、FT を対象に、FT 説明会を実施し、研修の内容と研修におけるファシリテーションのポイントを伝えた。更新研修については、SV 演習のための説明会をオンデマンド配信で実施した。研修終了後は振り返り会を実施し、次年度の教材作成に向けて情報収集を行った。

・受講者の理解促進に向けて、基礎・実践・更新研修すべてにおいて、演習の順番変更を行うと共に、教材作成に取り組み、ブラッシュアップを図った。

**〇基礎研修**

・今年度は、検討会にて「横断的な課題」の検討を重ねてきた。研修検討チームの垣根を越えて「横断的な課題」について討議、研修チームに持ち帰ることで視座を得てきた。

・基礎研修の柱のひとつである支援プロセスについて、受講者がひとつひとつ理解を深められるように演習教材等の変更、デモ動画の再撮影を行った。

・アセスメントは、インテークのポイントやニーズ整理についての見直し、ニーズ整理表の変更を行い、受講者が実質的な理解を得られるように取り組みを行った。その結果、FT アンケートでは、ニーズの導き方が分かりやすくなったとの意見もみられた。

・基礎研修検討チームとして、演習指導者養成研修の内容検討にも取り組み、演習指導者の養成に尽力した。

**〇実践研修**

・前年度を踏まえ、演習の順番変更を行い、アセスメントシートなどの内容の改訂を図り、ブラッシュアップを行った。

・基礎研修のニーズ整理部分や更新研修の SV 部分などを積極的に取り入れており、繋がりのある内容となった。

・FT 説明会にあたって、前年度からの変更点を一覧にしてまとめ、当日の説明を行った。

**〇更新研修**

・前年度を踏まえ、演習の順番変更、SV 演習をはじめとした内容の改訂を行った。また新たに用語集を作成することができた。

・SV 演習は前年度より進め方を変更したことも踏まえ、通常の FT 説明会と別に、オンデマンド配信（未視聴者対応で YouTube 配信）を実施した。
・演習動画（関係機関との連携の実践報告）の再撮影に当たって、検討委員から講師候補の情報をいただき、新たな方による動画を作成することができた。

**〇専門コース別研修**
・障害児支援をテーマにした研修を、児童発達支援管理責任者だけでなく、相談支援専門員も対象とした内容に更新するため、相談支援従事者研修検討委員との合同チームで検討を重ねた。児発管・相談共に２月に講義動画を配信する形で研修を実施した。

**〇演習指導者養成研修**
・推薦者に区市町村障害福祉主管課を追加し、昨年と同規模の人数を確保する事ができた。
・今年度も２回に分けて研修を実施し、会場を当センターの研修室にて行った。
・検討チーム内の基礎研修検討委員の交代を踏まえ、新たな２名が引継ぎを兼ねて参加。基礎研修で行われるワークを体験するプログラムを導入した。
・外部講師が基礎研修を見学してくださり、それを踏まえた受講者への説明、また基礎研修検討委員に向けたアドバイスをいただいた。

**【活動成果２　研修内容が重なる横断的な課題の検討】**
・今年度は新たな試みとして研修内容が重なる横断的な課題を抽出し、研修全体を見渡して検討する時間を設けた。
・個別支援のプロセスについて、各種会議について、人材育成及び協議会について、分野の異なる受講者への対応についての４つを課題として抽出した。
・全ての研修で共通の資料を使うこと、ＯＪＴに関する受講者の所属事業所へのアプローチ等が課題の解決策として提案された。

**【活動成果３　講師の養成】**
・演習指導者養成研修の推薦者として新たに区市町村障害福祉所管課を追加した。
・ファシリテーターが安心して研修に臨めるよう、各研修の実施前にファシリテーターへの説明会を実施し、更新研修は、通常の説明会に加え、SV に関する説明会をオンデマンド配信で実施した。
・検討会委員が各研修の教室進行となり、経験の浅いファシリテーターのサポートも担っていただいた。

**【活動成果４　サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修への参加】**
・今年度は国研修が令和７年９月９日から１２日まで開催され、基礎研修、更新研修、実践研修に検討会委員 3 名、意思決定支援、障害児支援の 2 つの専門コース別研修に検討会委員２名が参加した。
・第３回検討会で受講の報告を行い、国研修で得た情報を共有した。

**【活動成果５　その他】**
基礎研修、実践研修、更新研修、専門コース別研修事業の受託者が、オブザーバーとして検討会に出席。各研修の実施状況等について報告するとともに、検討会での検討結果を踏まえて各研修を実施した。

## 次年度の取り組み

| | |
|---|---|
| 基礎研修 | ・実践研修や更新研修とのつながりを意識できる取り組みを行う。基礎研修において、他の研修と共通して使用する図表を見直した際や進捗状況等について、随時検討会全体に共有を行い、一体感のある研修創りとなるように基礎研修チームとして連携していく。<br>・サービス担当者会議を題材とした演習の新設や 100 文字要約の再導入を行う。基礎研修の柱のひとつである支援プロセスに沿って、受講者の理解がより深まるように演習内容を高めていく。<br>・講義動画 3 日目部分の再撮影を検討する。<br>・「障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿 Ver.5」を活用する。<br>・演習で使用する資料やツールについて、受講者にとってより分かりやすく、理解につながるものとなるように整える。例えば、付箋の色を精査し視覚的に分かりやすく捉えられる工夫や、演習で使用する言葉の統一を行い、演習の意図がより効果的に受講者に伝わるように取り組んでいく。<br>・演習指導者養成研修について、引き続き担当者だけでなく基礎研修チーム一丸となって取り組みながら、演習指導者養成研修チームの在り方を検討したい。 |
| 実践研修 | ・演習の順番を変更し、個別支援に関する一連の流れの理解促進を図る、また OJT の内容が盛り込まれた内容となるよう検討する。<br>・研修全体を通して時間的にタイトにならないよう、ワークの設定などについて検討する。<br>・OJT の実施にあたって管理者も意識、関与できるような方法（申込フォームに OJT 実施の項目、事前課題に管理者のコメント欄の設定等）について検討する。<br>・ICF について、どのように示すか、またワークの仕方について検討する<br>・演習で作成する個別支援計画について、他グループが作成したものを共有する方法について検討する。<br>・基礎、更新研修と連動性のある内容となるよう資料、用語など統一できるようにする。 |
| 更新研修 | ・現行では、事後動画に「一緒に東京の福祉を作っていきましょう」というまとめを入れているが、他の研修と同様に会場集合時の最後に位置付け、受講者の印象に残るよう工夫する。<br>・横断的な課題の検討の中で、「更新研修でも個別支援計画を改めて確認できる内容があるとよい」という意見が出された。これを踏まえ、受講者が自ら作成した個別支援計画を振り返る内容を盛り込めないか検討する。<br>・演習 3 「関係機関との連携」に、自立支援協議会についてわかりやすく説明した既存動画があれば活用する。<br>・演習 5 「事例検討のスーパービジョン」における教室進行及びファシリテーターの役割や立ち位置について、視覚的に理解しやすい資料を作成する。<br>・更新研修で使用する会議の名称を基礎研修・実践研修と統一する。<br>・用語集は他研修との連動を意識し、横断的な課題として整理できると良い。 |